

あお

県民
だより

2015
2月号
No.149

地域には
眠っている魅力がある

CONTENTS 目次

平成27年2月1日発行(偶数月1日発行)

- 特集：地域県民局の取組……………①～⑤
- 申吾のほっとコラム……………⑥
- ちよつとの工夫で、健康ごはん！
- 良医を育む地域・青森へ……………⑦
- 県立高校の将来構想を検討しています！
- あおり食命人 食フェア第4弾及びシンポジウムを開催します！
- 工藤所長のソウルからアンニョンハセヨ～……………⑧
- あおりインフォメーション

「理屈こねる前に、まんず動げ」 面白がる心で地域を元気に！

「大間の魅力を全国に発信するためには、まず自分たちが面白がることから始めてみよう！」と、2000年、若者有志たちと、まちおこしゲリラ集団「あおぞら組」を結成しました。フェリーの乗客に大漁旗を振る「旗ふりウエルカム活動」、マグロー筋Tシャツなどの商品開発、さらに、「大間やるど会」主催の「大間超マグロ祭り」などを次々に展開。それまで地元では食べられなかった大間のまぐろを提供する飲食店が増えたり、地元有志によるガイドなど、大間でしか体験できない目玉がいくつも生まれました。活動を始めて10年目のある日、大間高校の生

徒2人が、「私たちもゲリラの仲間に入れてください」と訪ねてきたんです。聞けば、小学生のときに旗振りに参加し、自分の住む街に誇りを感じたのだとか。10年やっていれば、子どもたちにもちゃんと伝わっていくんだなと感無量でした。代々受け継がれ、「大間高校非公式ゲリラ部めんちょこ」として活動しています。平成27年度末の北海道新幹線開業は、下北半島にお客さんをお呼びするチャンス。ふるさとを愛する仲間と、地域をまたぎ、連携しながら一緒に盛り上げていきたいですね。

しま やす こ
まちおこしゲリラ集団「あおぞら組」組長 島 康子

皆さん、生まれ育った地域は今元気ですか？ 県内では、地域の魅力をこれまで以上に生かして、より地域を元気にしようと立ち上がっている方たちがいます。このように、これからの青森県を創っていく原動力となるのは県民の皆さん一人一人の思いです。

県では、皆さんが住んでいる地域への思い、そしてその思いが地域を超えてつながることで、青森県全体が更に元気になるよう一緒に取り組んでいきます。

青森県基本計画
未来を変える挑戦
～強みとことん、課題をチャンスに～

地域の魅力を輝かせる

6 県民局の挑戦

「青森県に生まれてよかった」

そして、「ここで生きていきたい」。

誰もがそう思える青森県の実現のために

地域の皆さんが主役となる

魅力ある地域づくりに挑み続けます。

「青森県基本計画 未来を変える挑戦」では、県内の6地域県民局(東青、中南、三八、西北、上北、下北)の圏域ごとに地域別計画を策定し、その実現に向けた取組を行っています。

地域別計画とは、青森県全体としての動向や政策の方向を踏まえた上で、各地域が置かれている状況や地域資源の特性をしっかりと捉え、各地域の「めざす姿」を掲げるとともに、その実現に向けた取組の方向性を示したものです。これらの計画は、各地域内の市町村や関係団体などの皆さんと一緒に検討を重ねており、地域の声が反映されているものでもあります。

地域別計画の推進に当たっては、実際の経済活動や住民生活が広域にわたっていることから、例えば、北海道新幹線開業に向けた受入態勢の整備など、地域県民局をはじめ各地域間で相互に連携した取組も行われています。

各地域県民局では、地域を元気にするためのさまざまなサポートを行っています。が、「めざす姿」の実現に向けた力となるのは、県民の皆さん一人一人の地域への思いです。皆さんの地域が、更に魅力あふれる元気な地域へと進化していくために、地域一丸となって一緒に取り組んでいきましよう。

【2030年における地域のめざす姿】

下北地域 (5ページ上)

- ◎住民も訪れる人も心地よい時を過ごす下北地域
- ◎高いブランド力で、地域内外から選ばれる下北の農林水産物
- ◎観光客が繰り返し訪れる下北地域
- ◎エネルギー、ICTの利用先進地
- ◎安心して健やかに暮らせる下北地域
- ◎手をつなぎ力を合わせる下北人

東青地域 (4ページ上)

- ◎「食」産業の充実・強化
- ◎着地型観光の起点機能の確立
- ◎優れた生活・仕事環境を生かした産業の集積
- ◎誰もが住んでみたい質の高い地域社会

西北地域 (3ページ上)

- ◎たくましい農林水産業
- ◎進化し続ける観光産業
- ◎地域ぐるみの取組が充実した健康に暮らせる地域
- ◎地域の支え合いを生かして暮らしやすさが実現している社会

中南地域 (3ページ下)

- ◎地域特性を生かした高付加価値型農業の先進地
- ◎伝統工芸から先端技術まで幅広いものづくりに適した地
- ◎多彩な観光資源の活用による北海道・北東北観光の拠点
- ◎健康なまちづくりの先進地

上北地域 (4ページ下)

- ◎戦略的な農林水産業が展開されている地域
- ◎エネルギー産業の集積が進む地域
- ◎貴重な資源を生かした魅力あふれる滞在型観光地
- ◎誰もが安全・安心に暮らせる地域社会

三八地域 (5ページ下)

- ◎元気なものづくり産業の集積地
- ◎環境に配慮したエネルギー・リサイクルの先進地
- ◎力強い経営体が地域を支える農山漁村
- ◎ぬくもりと彩り豊かな観光地
- ◎健康、長寿で、生き生きと暮らせる地域

問い合わせ先

下北地域県民局地域連携部：電話 0175-22-1195
 東青地域県民局地域連携部：電話 017-734-9412
 西北地域県民局地域連携部：電話 0173-34-2175
 中南地域県民局地域連携部：電話 0172-32-2407
 上北地域県民局地域連携部：電話 0176-22-8194
 三八地域県民局地域連携部：電話 0178-27-3936
 「青森県基本計画 未来を変える挑戦」企画調整課：電話 017-734-9129

青森県民の歌「青い森のメッセージ」カラオケ全国配信中

2001年に制定以来、皆さまに親しまれてきた青森県民の歌「青い森のメッセージ」が2014年11月11日から(株)第一興商の通信カラオケにて全国配信されています。カラオケにお出かけの際は、ぜひ青森県民の歌「青い森のメッセージ」を愛唱しましょう。

◎配信機種は(株)第一興商の次の4機種(全国約16万台)となります。

- ・LIVE DAM(ライブ ダム)
- ・Premier DAM(プレミア ダム)
- ・Cyber DAM HD(サイバー ダム エイチディー)
- ・CYBER DAM α(サイバー ダム アルファ)

2月の「地域県民局の取組」関連番組 放送予定

放送局	番組名	放送時間
青森放送	大好き、青森県。	2月15日(日) 17:00~17:15
青森テレビ	みんなの県庁!	2月7日(土) 18:55~19:00
	こんにちは、県庁です。県職員が生解説	2月2日(月)・2月16日(月)「おしゃべりハウス」(10:00~10:55)内で放送
青森朝日放送	メッセージ 4回シリーズでお届け	2月7日(土)
		2月14日(土)
		2月21日(土)
		2月28日(土)
		9:30~9:35

地域で育む

健やか力

「地吹雪」に代表される津軽の厳しく長い冬。その真っ只中にある西北地域は、外出の機会や手段が限られ、積雪のため運動する場所の確保も難しく、どうしても運動不足になりがち。一方、食塩摂取量が多いなど生活習慣上での課題もあり、働き盛り世代の早世が多い状況にあります。



初回モールウォーキングレッスン

行うこととしました。初回は、ウォーキングトレーナーのデューク更家氏を講師に招き、レッスンをを行ったほか、健康づくりへの意識も高めてもらおうと地域の保健関係者の協力で健康測定会も実施しました。

その後も、毎月第2・第4火曜日には、デューク更家氏の公認スタイリストによるレッスンを継続して実施（平成27年も実施予定）。このレッスン日以外にも、モールウォー

キングする方が徐々に増え始めており、更に10月下旬からは、歩行数などに応じてポイントを付与する「イオンつがる健康ポイントプログラム」がスタート。これをきっかけに、更にも多くの方々が参加してくれることを期待しています。

そんな私たちの思いにイオンモールつがる柏も賛同してくれ、昨年7月26日にモールウォーキングをスタートさせました。せっかく開催するのであれば、より効果的なウォーキングを実現したいとウォーキングレッスンも



地域の方と一緒に、
取り組みやすいことから始める、
それが継続につながる第一歩です。

この地域ならではの特性を踏まえた健康づくりです。

【西北地域／環境活用型健康づくり応援事業】

寒い冬でも楽しく モールウォーキング



【中南地域／ラン&バイクで健康増進観光推進事業】

斬新なアイデアで 仲間と楽しく健康づくり



笑顔あふれる岩木山一周ファンライドの参加者

これからも、
地域の方々と一緒に、
楽しく体を動かしながら
健康づくりを目指します。

平均寿命が全国一短い青森県。その理由の一つに挙げられる運動不足を解消するため、今年度はさまざまなことに取り組みました。

その一つとして、初心者でもジョギングやサイクリングを気軽に始められようとしてコースマップを作成（平成27年3月末までに完成・配付予定）。

例えば、弘前市役所前をスタートし、禅林街、りんご公園、最勝院五重塔、AtoZメモリアルドッグなどの観光名所を巡り、弘前市役所に戻るコースは、地元の方はもちろん県外から観光やビジネスで訪れた方々でも存分に楽しめること間違いなしです。

NPO法人スポネット弘前や中南地域を中心に活動するランナー、サイクリストと一緒に、10回以上ワークショップや現地調査・試走を重ね、生み出したコースの数々。だからこそ、魅力的なコースばかりを開発できたのだと実感しています。

また、昨年8月には、弘前市及びチャレンジヒルクライム



岩木山実行委員会と連携したイベント「岩木山一周ファンライド」も開催。これは、時間やスピードを競うのではなく、参加者が約10人ずつのグループに分かれ、気持ちよく走れるスピードで岩木山を一周するというもの。イベントには、約100名が参加し、全員が無事に完走できました。途中の休憩ポイントで、嶽きみなど地域の名産品をいただいたことも、大切な思い出となりました。

そして、初夏に行われる「弘前城リレーマラソン」の冬バージョンとして2月11日には「弘前城リレーマラソン冬の陣」を開催します。これは、冬場、家に閉じこもってしまいがちな地域の方々の意識を変えたいという思いで実施するもので、雪が積もった中でも気軽に走れることに気付いてもらえるでしょう。

運動は、誰かにやらされているという意識だと長続きしません。自らが楽しみながら参加することで継続につながります。それは、私たちにとって新たな発見の一つでした。

平成27年度末、北海道新幹線が開業すると、今別町に本州最北端の新駅「奥津軽いまべつ駅」が誕生します。昨年12月には、北海道新幹線の試験車両が新駅に入線し、いよいよ開業が目前となりました。

この開業を機に、多くの方に地域の数々の魅力に触れてほしいと願い、現在、景観の活用や料理メニューの開発など、観光客の受入れに向けて地域全体が盛り上がっています。

津軽半島には国内最古・最長の森林鉄道である「津軽森林鉄道」跡が潜在しており、この「津軽森林鉄道」の歴史と魅力をPRするため、パネル展示などの企画展や遺構巡りツアー、シンポジウムを展開。県内外からたくさんの方が参加し、「こんな素晴らしいものが眠っていたとは」「規模に圧倒された」「今後も残し、活用していきたいほしい」などの感想をいただき、文化的・歴史的価値を広く伝えることができたと実感しています。



北海道新幹線試験車両の奥津軽いまべつ駅への初入線

また、地元のおいしい食材を地元

地域が主役の

おもてなし

で提供するため、飲食店への食アドバ イザー派遣や試作料理の試食アンケートの実施など、食の磨き上げに力を注いでいます。この取組によって、今別町の郷土料理「あづべ汁」は、焼き魚や山菜などの料理と組み合わせ「あづべ汁定食」として生まれ変わり、地域の飲食店での提供が始まりました。

さらに、開業対策連絡協議会では、開業の効果を最大限に獲得するため、地域の魅力を生かした具体の取組について、東青地域の市町村や商工・観光団体等が一致団結して検討を進めているところです。

駅が設置される今別町では、500日前イベントとして新幹線開業PRイベント実行委員会が中心となり、新青森駅から奥津軽いまべつ駅までを町民が自転車で行ったり、県内外の数多くのイベントで、のぼりや新幹線を模した被り物などでPRし、開業を盛り上げています。

奥津軽いまべつ駅開業まで1年余り。地域にとってまたとないチャンスです。今後も開業に向け、地域全体で取り組んでいきます。



提供：JR北海道

地域の宝を再発掘し 新たな切り口で売り出す

【東青地域／北海道新幹線「奥津軽いまべつ駅」開業に向けた戦略展開事業】



地域が一丸となって、地元の魅力を存分に味わってもらえる新たな価値を創り出します。

【上北地域／カメラ女子による上北魅力発信事業】

女性目線の写真が

地域にとっての活力に



私たちが暮らす上北地域は、和田湖、奥入瀬渓流などの自然資源や歴史、風土、食などの文化資源に恵まれた県内屈指の観光地域。しかし、東日本大震災以降、観光入込客数の落ち込みが続き、現在、徐々に回復しているものの震災前の水準には戻っていないのが現実です。

そんな中、ターゲットを絞った効果的な誘客が急務だと感じていた私たちが、一番に注目したのは、最近、旅行業界でも特に力を入れていく「女子旅」。年代別・性別で、最も高い宿泊旅行実施率を誇る20～30代の女性のニーズをしっかりと取り込むこと。そして、小型軽量の一眼レフが普及したことで、旅先の風景やグルメ写真をブログなどに積極的に発信するカメラが趣味の「カメラ女子」が増えていることから、観光資源の魅力を彼女たちならではの視点で引き出し、写真撮影してもらったものを多くの方へ発信してもらえたら、最終的に誘客につながるのではないか？と考え、「カメラ女子による上北魅力発信事業」を開始させました。

さっそく、カメラ女子による上北地域の観光資源や撮影スポットの検討会を開催。その後、カメラ女子に人気の写真家を招き、指導を受けながらの撮影会を実施しました。彼女たちが思い通りに撮影した観光資源や撮影スポットの写真は、HPやブログ、SNSなどにアップし、全国に向けて情報発信しています。

また、上北地域を縦断する青い森鉄道の車両内に、彼女たちが撮影した写真を展示する「カメラ女子による『動く写真展』」も開催。鉄道を利用する旅行者や沿線住民に向け、上北地域の魅力をこれまでと違った新鮮な形でPRすることができました。

今後も、季節ごとの撮影会を続けていく予定。そして、写真展の開催はもちろん、ポストカードや女性向けパンフレットの作成・配布など、さまざまな形の情報発信に取り組んでいきます。



カメラ女子による上北地域撮影会

全国のカメラ女子が訪れたい企画、そして、女性主導の観光客増加を目指したい。



“おもてなしの心”は下北の宝。
台湾からの誘客が
地域の自立につながるような
“大きな流れ”を
つくっていききたい。

【下北地域／台湾からの観光客誘客 来さまい下北推進事業】

時を経てつながる絆 台湾人観光客を下北へ



現在、函館には年間約21万人（平成25年）もの台湾人観光客が訪れています。この台湾の方々も、函館―大間を約90分で結ぶ「大函丸」を利用し、下北半島に訪れてもらい、下北地域を活性化させようと取り組んでいます。

また、来年3月には、北海道新幹線が開業。それは、更なる誘客のチャンス。そこで昨年より、地元市町村をはじめ観光関係者と共に台湾人観光客への「おもてなし」をキーワードにインバウンド事業に着手しました。

下北地域は、昭和30年代から40年代、医師不足に悩まされ、地元の診療所などで台湾から来てもらった医師に医療を施してもらっていた歴史があります。今でも下北地域では「子供の頃、台湾人医師に診てもらった」「台湾人医師が来てくれて、多くの命が救われた」といった話題が自然と出て、当時の記憶がすぐに思い出されるようです。また、大間町の天妃様行列やむつ市川内中学校が台湾の明陽中学校との20年余りの交流をしているつながりもあります。

このような台湾との深い絆を持つ歴史的背景から、下北地域には台湾の方に感謝の思いを持つ人が多く、「おもてなしの心」で彼らを迎える機運が高まっています。県では地元の方々と一緒に台湾人観光客を受け入れるための勉強会や語学教室の開催、台北駐日経済文化代表処も参加した台湾フォーラムを通じて「おもてなし」技術の磨き上げと受入態勢の構築を進めています。

こんな中、実際に昨年11月、台湾の僑光科技大学の方々を下北を訪れ、旗振りの出迎え等で地元市町村が連携して「おもてなし」の「こころ」から感動した、下北のもてなしは「最高」と大変喜ばれ、台湾人観光客の今後の誘客に手ごたえを実感しました。



下北のもてなしに大感激(台湾の僑光科技大学)

【三八地域／三八地域ものづくり産業フェア】

ものづくりのポテンシャルを 三八から内外へ発信



私たちが暮らす地域では、地域のものづくり企業のポテンシャルを生かし、産学官金連携など地域が一体となり、地域企業の経営力強化や企業間の連携、さらには、新たな成長分野への参入など「三八地域ものづくり産業の活性化」に向けて、あらゆる可能性に

挑戦してきました。

そんな中、地域のものづくり関係者から、「地域経済の活性化のため、ものづくりに関するさまざまな情報を共有する場、新たなことに挑戦するための意識醸成ができる場が欲しい」、また、「この地域にある優れた技術をどんどん発信していける機能が欲しい」などの声がよせられ、それらの期待に応えるために、今年度、「三八地域ものづくり産業フェア」開催を決定しました。

同フェアは、三八地域だけでなく、県内にある企業やものづくり関係者達が一堂に会し、「ブース出展」や「ショートプレゼン」などを展開するほか、三八ものづくり技術大賞や特別講演など、

関係者達の意識を高める企画も予定。優れた製品・技術・取組などを幅広く情報発信し、互いの情報を共有できる場として活用して欲しい、という思いでつくりあげています。

今後とも地域のものづくり産業活性化、そして、創造的復興へとつないでいくため、地域のものづくり企業の強化と底上げ、さらに、企業間のビジネスネットワークの強化に取り組んでいきます。

なによりも地域関係者が一体となった取組が、地域のものづくり産業の活性化につながるという信念を持って進めていきます。

地域が誇る
ものづくり
産業



平成24年度ブース展示の様子

【三八地域ものづくり産業フェア】

- ◎日 時／平成27年2月27日(金) 12:00～19:00
- ◎開催場所／八戸プラザホテル プラザアーバンホール
- ◎主催／青森県三八地域県民局
- ◎内容／ブース展示によるPR、ショートプレゼンの実施、三八ものづくり技術大賞の実施、特別講演 等
- ◎対象／県内のものづくり・環境エネルギー分野に関わる企業・団体

地域県民局の8年

青森県知事 三村 申吾

初めて「地域県民局」の名称と内容を提案したのは、平成18年2月の議会においてである。

その提案理由は「(地域県民局は)市町村との適切な役割分担の下、その地域の経済、風土、文化、社会などの特性を生かした地域づくりを進める」であった。

かつて百石町長であった自分の思いとして、実際の100キロの距離も含めて、各出先機関が十和田市等にあるとしても、県庁は気分的に遠いものだった。

その後、知事に就任し、厳しい行財政改革を断行せざるを得ない状況になって、県には、県民の生活の現場に最も近くて、痛みを共にせざるを得ない市町村に、もっともっと寄り添う姿勢と仕組みが絶対に必要なのではなかろうかと、考えたところであった。

まずは、試行的に、中南、三八、下北の地域県民局を設置した。県民局長等には、発令に際し、しっかりと市町村の役所役場や団体等を訪ね歩き、また地域の県民の思いを受け止めるように、かつ各地域の実情に即した地域づくりのための応援に全力を尽くすようにと、強く指示をしたことを思い出している。

現場において、地域のために全身全霊を尽くす各県民局長の仕事ぶりを評価いただいてか、翌年には、残り、東青、西北、上北の3県民局設置の強い要望を地元からいただくに至った。

各局が地域と共に提案して来た意欲あふれるキラリと光る事業を、

申吾の ほっとコラム

改めて振り返ってみる。

東青は、日本一の生産量を誇るカシスのブランド化をめざして頑張ってくれている。大手量販店による食と地域を豊かにするための活動にも選ばれ、更なる成長が期待される。

中南は、いまや全国が注目するまち歩き観光の仕組みを、地域の人たちと創り上げた。「まち」だけでなく、路地裏探偵団の面々自身も魅力の一つだ。

三八では、さんのへ農業小学校を挙げたい。植える、採る、いただくという活動を通して、食と農業の大切さを学んだ子どもたちの成長が楽しみだ。

西北では、トレインアテンダントが、津軽鉄道を利用したお客様だけでなく、地域の皆さんからも大きな評価をいただいた。彼女たちの、地域の方々と連携した活動は、地域を明るくしてくれた。

上北・奥入瀬には、苔ガールが似合う。奥入瀬溪流の新しい魅力を見だし、全国に発信してくれた。苔ガールをきっかけの一つにして、十和田湖・奥入瀬に、たくさんのお客様を呼び込みたい。

下北は、水揚量日本トップクラスのあんこうを、下北の冬季観光の主役級にまで押し上げた。下北の新たな魅力の一つとして、全国ブランドをめざしてほしい。

地域県民局は、これからも、地域に寄り添い、地域と共に行動し、地域を守っていく。現場で、安心して暮らすことができる社会づくりを担う地域県民局の、今後の活躍にご期待ください。

ちょっとした工夫で、健康ごはん!

蒸して
うま味成分
アップ!

やりいかの射込み蒸し

ぷりぷりな食感で淡白なおいしさ。「青森県産やりいか」
冬から春先が旬の「青森県産やりいか」

蒸す

青森県産やりいかは、さっぱりとした味と歯ごたえの良い食感が絶妙で、透き通っているのが鮮度がいい印。やりいかは、熱を加えることで柔らかく仕上がるだけでなく、うま味が増すため、味付け調味料も控えることができます。今回は、蒸し器だけでなく、電子レンジでも調理できる手軽な「蒸し料理」をご紹介します。

◎材料 ※材料は4人分です	れんこん……………100g
やりいか……………4杯(400g)	ピーマン……………1個
酒……………大さじ3	にんにく……………10g
卵……………5個	酒……………大さじ1
油……………適宜	塩……………小さじ1/2
塩……………少々	だし……………適宜
白こしょう……………少々	水溶きかたくり粉…大さじ1

◎調理法

- ①やりいかは、足と骨を抜き、胴は水気をふき取り、足はみじん切りに。
- ②卵を溶き、①のやりいかの足と(A)を加えよく混ぜる。
- ③フライパンに油を熱し、②を一度に入れ、強火で混ぜ、半熟のうちに一旦ボールにうつす。
- ④やりいかの胴に何ヶ所か、軽く竹くしで穴をあける。
- ⑤胴の中に③の半熟卵を詰め、胴の口をつま楊枝で止める。
- ⑥平たい皿に⑤をおき、酒を加えてラップし、強火で5~7分ほど蒸し器で蒸す。
- ⑦途中、いかをひっくり返し、火を止める直前に、花形に薄切したれんこんと、輪切りにしたピーマンを入れて軽く蒸し、火を止める。(電子レンジの場合は、ラップをして500w(強)で1分、ひっくり返してれんこんとピーマンを入れ、1~2分加熱し、そのまま冷めるまで余熱で火を通す。)
- ⑧⑦のやりいかを輪切りにして、れんこんとピーマンと共に盛り付ける。
- ⑨⑦の皿の水分にだし汁を加えて1カップとし、にんにくのみじん切り、酒、塩を加え火にかける。
- ⑩⑨に水溶きかたくり粉で濃度を上げ、全体にかけてできあがり。

◎一人分のエネルギー 271kcal / 塩分 1.2g



※写真は2人分です

「健やか力」アップ! 一口メモ

※「健やか力」とは、健康情報や医療情報を適切に利用し、活用する力のことをいいます。



調理方法にひと工夫で「健やか力」アップ!

「蒸す」とは、水蒸気の熱を利用して調理する方法。他の加熱料理と違って、焦げる心配がない、調理に油を使わないのでエネルギーが少なくすむ、栄養素の損失が少ない、料理の形がくずれにくく軟らかく仕上がる、という利点があります。特に、野菜を蒸した場合、野菜が水分をあまり吸わず、表面が固くならないので、不足しがちな野菜をおいしく、たくさん食べることができます。

レシピ開発・調理/管理栄養士 福土るみ子

良医を育む地域・青森へ — 青森県の挑戦 —



県では、医師を目指す中学生、高校生の段階から、医学生、研修医、更には一人前の医師として成長した後も、医師の皆さんを応援していく仕組みとして、「良医を育むグランドデザイン」を策定し、医師不足の解消に取り組んでいます。

その一つとして、将来医師を目指す皆さんが安心して勉学に励むことのできる環境づくりのため、中学生や高校生を対象に、医師という職業の魅力ややりがいを感じてもらうためのさまざまな事業を展開しています。

◎「ドクタートーク2014」を開催しました

昨年11月15日(土)、県内で活躍されている医師による講演会「ドクタートーク」を開催しました。

今年度は、三本木高等学校と弘前高等学校を会場に、講師として、八戸市立市民病院の岡本道孝先生、板柳中央病院の長谷川範幸先生をそれぞれお迎えしました。

当日は、県内の中学校や高校の

「良医」を育むグランドデザイン 3つの戦略

- 優れた医療環境(医師が学ぶ環境)を整える
- 意欲が湧く環境(医師が働く環境)を整える
- 仕組みを整える
(医師が学び、働く環境を整えるために、県・市町村・大学がそれぞれ連携と支援のネットワークを取り組んでいく)
(平成17年11月策定)



三本木高校での講演の様子

生徒約200名が参加し、講師から、医師を志したきっかけや実際の医療の現場での診療の様子、苦労ややりがいなど、普段なかなか聞くことのできない貴重なお話を聞かせていただきました。

講演後の意見交換の場面では、参加した生徒の皆さんからたくさんの質問が寄せられ、講師と活発な意見交換が交わされました。

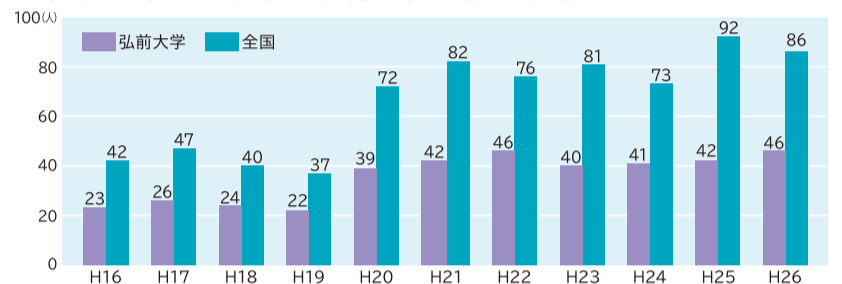
今回の講演で、参加した生徒の皆さんそれぞれが医師を目指す志を一層高め、将来医師として活躍されることを期待しています。

◎これまでの成果

これまでグランドデザインで実施してきたさまざまな取組等により、本県出身の医学部医学科合格者数は着実に増加しています。

県では、これからも引き続き、医師を目指す中学生や高校生を支援していきます。

■本県出身の医学部医学科合格者数の推移



医療薬務課 ☎017-734-9288

県立高校の将来構想を検討しています!

～青森県立高等学校将来構想検討会議について～



県教育委員会では、現在取り組んでいる県立高等学校教育改革第3次実施計画終了後の平成30年度以降の県立高等学校の在り方を検討するため、今年度、県内のさまざまな分野の方々を委員にお願いし「青森県立高等学校将来構想検討会議」を設置しました。

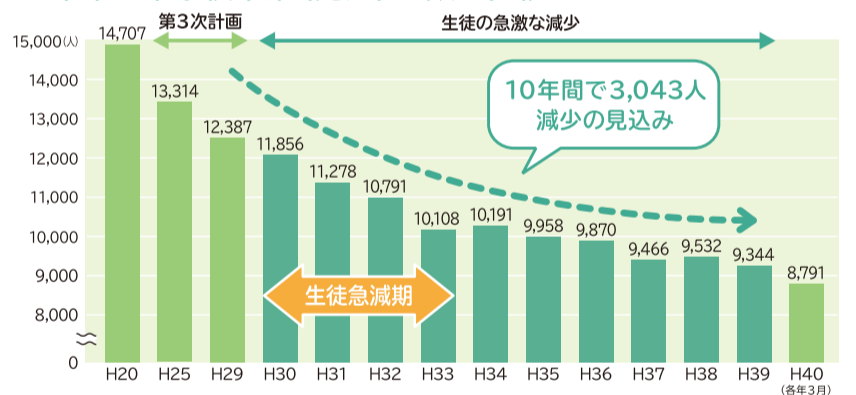
検討会議では、生徒の急激な減少が見込まれる中、平成28年1月の答申に向け、次のテーマについて検討しています。

- 1) 社会の変化や生徒の多様な進路志望に対応した学校・学科の在り方について
- 2) 夢や志の実現に向けた教育活動に必要な高等学校の規模・配置について
- 3) 各地区の学校配置等に関する基本的な方向性について



検討会議委員による学校視察の様子 (青森工業高校)

■本県の中学校卒業(見込)者数の推移



✉ 検討状況は随時、県教育委員会ホームページに掲載していますので是非ご覧ください。皆さまのご意見もお寄せください。▶E-KAIKAKU@pref.aomori.lg.jp

詳しくは、[青森県立高等学校将来構想検討会議](#) 🔍検索

高等学校教育改革推進室 ☎017-734-9866

あおり食命人

食フェア第4弾 及び シンポジウムを開催します!

◎あおり食命人とは

県では、平成25年度から、旬の県産食材を生かした健康的な食(いのちを支える食)をつくる外食・中食(弁当・惣菜等)事業者を「あおり食命人」として育成し、家庭外でも健康的な食を選択できる環境づくりに取り組んでいます。(平成26年12月末現在172名)

◎あおり食命人の食フェア第4弾

あおり食命人を知り、その料理を食べることで普段の食事を見直すきっかけにしてみよう、フェア参加店舗(38店舗)において、共通のテーマ「冬に食べたいお母さんの味」に沿った料理を提供します。店舗の詳細はホームページを御覧ください。 ■フェア期間: 1月30日(金)～2月28日(土)

◎あおり食命人シンポジウム

短命県返上に向け官民挙げて機運が盛り上がっている中、健康と食に関するさまざまな情報が錯綜しています。確かな視点・新たな着想で現代の食をとりまく問題を取り上げた西日本新聞社の連載「食卓の向こう側」の編集委員である佐藤弘氏をコーディネーターとして、あおり食命人とともに、私たちの食について考えます。あおり食命人の料理の試食もありますので、ぜひ参加ください!

- 日時: 2月22日(日) 13:00～15:30(12:00受付及び試食開始)
- 場所: ねぶたの家フ・ラッセ(青森市安方1-1-1)
- 内容: 基調講演「私たちの『食』を考える」(西日本新聞社編集委員 佐藤弘氏) パネルディスカッション「あおり食命人の“今”と“これから”」
- 参集範囲: 県民・あおり食命人 150名(無料・要申込)

詳しくは、[あおり食命人](#) 🔍検索

食の安全・安心推進課 ☎017-734-9354

皆さん、アンニョンハセヨ(こんにちは)!早いものでこの連載は今回が最終回となります。今回はソウルの2年間で私が感じたことをお話ししたいと思います。

日頃の報道から、韓国人は日本を嫌っていると思われる方も多いと思います。韓国に住んでみると、「昼は反日、夜は親日」という言葉もあるように、国際観光博では日本のブースに人があふれ、日本のロールケーキが大人気で、インターネットでは日本のドラマやアニメもたくさん見られています。また、「韓国人は情に厚い」とよく言われますが、よく言えば世話好き、悪く言えばおせっかいなこの韓国人の



何ととっても韓牛カルビですね

「情」に助けられたことも多々あります。また、大都会のソウルでは何の不自由もなく生活できますが、一方で、空気や水の清らかさ、緑の美しさでは青森には勝てません。同様に、いくらおいしいと言われても、韓国で食べる刺身は、青森で食べる刺身のおいしさには負けると思います。

今の世の中、インターネットで大抵のことは調べることができますが、自分の目で直接見ないと気が付かないことも多くあります。そのことで、違いが分かり、相手の良さや、自分の良さもわかります。私は、これからの社会を生きていくうえでは、いろいろなことを直接見聞き、体験し、自分と他人の違いを認めること



**青森・ソウル線で
ソウルへ、世界へ!**

水・金・日 週3便運航中

KE768 青森 13:55 ⇒ 仁川 16:55

KE767 仁川 10:30 ⇒ 青森 12:50

国土交通政策課 ☎017-734-9153

がとても大事だと思います。その手段の一つが旅行です。町内でも、隣町、県外、海外、どこでも構いません。そこには、どのような人々が暮らしていて、自分たちの生活とどのように違うのかを感じてほしいです。青森の良さも感じることができるといいです。そして、その行先の一つが韓国であればうれしいですね。それでは、皆さん、アンニョヒケセヨ(お元気で)!

INFORMATION

あおもりインフォメーション

青森県ロジスティクス推進 フォーラム開催のお知らせ

津軽海峡は、多くの国際船舶が航行する国際物流の動脈です。この地理的な優位性を本県の新たな経済成長にどう転換させることができるのか。

県では昨年、北極海航路を見据えJAXA等と共同研究に着手しました。また、農林水産品の強みをいかしていくため、ヤマト運輸株式会社と連携した新しい輸送サービスが、今年4月から開始される予定です。フォーラムでは、これら県が取り組む具体的な施策を例に、物流を切り口にした本県の可能性を探ります。

- 日時 / 2月16日(月) 14:00-17:20
- 場所 / 青森国際ホテル(青森市新町1-6-18)
- 定員 / 150名(無料・要申込)



港湾空港課 ☎017-734-9676

あおもり「健やか力」検定 受検者募集中!

健康長寿の青森県を実現するためには、まず皆さん一人ひとりが健康のことをよく知り、日頃から健康づくりを実践することが大切です。皆さんが健康についてどれくらい知っているか、試してみませんか。

- 日時 / 3月15日(日) 10:00-11:00
- 場所 / ウェディングプラザ アラスカ(青森市新町1-11-22)
- 申込締切 / 2月27日(金) (定員200名 先着順)



健やか力向上
推進キャラクター
「マモルさん」

詳しくは、県庁HP [健やか力検定](#) [Q検索](#)

がん・生活習慣病対策課 ☎017-734-9283

除雪作業にご理解・ご協力をお願いします

除雪作業を迅速かつ安全に行うため、「道路に雪を捨てないでください」/「路上駐車はやめましょう」/「深夜作業にご理解を」/「作業中の除雪車には30m以内に近寄らない」/「通行規制にご協力を」/「寄せ雪処理にご協力を」をお願いします。

詳しくは、県庁HP [除雪作業 協力](#) [Q検索](#)



冬の国道279号の道路情報をメールで通知

冬期間の国道279号(むつ市～野辺地町)の通行止め情報をメールで提供します。
 ■情報提供期間 / 平成26年12月1日(月)～平成27年3月31日(火)

登録方法など、詳しくはHP [青森みち情報](#) [Q検索](#)

道路課 ☎017-734-9657

申告はお早めに ～所得税・住民税、消費税・地方消費税～

所得税・住民税、消費税・地方消費税の申告期限は次のとおりです。お早めに申告してください。

所得税・住民税	3月16日(月)
消費税・地方消費税	3月31日(火)

お好きな時間に自宅等のパソコンから申告できるe-Tax(電子申告)が便利です。ぜひご利用ください。

詳しくは 国税庁HP [e-Tax](#) [Q検索](#)

税務課 ☎017-734-9064



みなさんと県庁を結ぶ
**県政
 インフォ
 メーション**

テレビ

- RAB「LINK/青森県」(30秒スポット)
- RAB「大好き、青森県。」(第三日曜日) 17:00～17:15 (放送週が変更になることがあります)
- ATV「こんにちは、県庁です。」(月)10:00～10:55おしん
- ATV「みんなの県庁!」(第一土曜日)18:55～19:00
- ABA「メッセージ」(土)9:30～9:35

ラジオ

- RAB「青森県広報タイム」(月)～(木)7:30～7:35
- エフエム青森「あおもり・ふあん」(月)～(金)16:55～17:00

新聞

- 「広報あおもりけん」毎月1日・16日
- 東奥日報・デーリー東北・陸奥新報

Ustream配信

- 「A-Stream」毎週火・金曜日 12:20～12:50

編集発行 / 青森県広報広聴課 ☎017-734-9137

〒030-8570 青森市長島1-1-1 / 県のホームページ <http://www.pref.aomori.lg.jp/>

この印刷物は527,000部作成し、印刷経費は1部当たり8.8円です。

県民だよりあおもりの印刷に係る電力2,964kwhは、県内の住宅用太陽光発電で発電されたグリーンな環境価値を活用し、グリーン化されています。詳しくは県HP [グリーン電力証書](#) [Q検索](#)